

# avancer 『アヴァンセ』

令和5年度・第1号

令和5年5月吉日 所長 海老澤政昭

令和5年度がスタートし、1か月が経過しました。生活介護では数人の仲間たちが部屋移動を行ない、デイでは高等部3年生が卒業、人数が若干減りましたがそれぞれが進級し新たな学年でのスタートを切っています。B型は新しいカフェメニューの開発等、新たな創造をめぐらし始めています。

さて、毎年年度末に実施しています“まとめの会”を4月23日（日）に実施しました。全体総括、各部まとめ、各委員会まとめを3時間かけて発表し合い、各部及び各委員会を超えてそれぞれの支援員及び指導員の学びの場となりました。その中で、全体総括について少し報告させていただきます。

令和4年度に第三者評価を受審したこと、ゴウディングが第Ⅰ期10か年計画を終え、令和5年度より第Ⅱ期10か年計画がスタートすることから、あらためて『原点に立ち返って考える』～私たちの仕事とは～をテーマに全体総括を行ないました。

まず第一に、なぜゴウディングでは労働の基軸を農業としているのかについて、農業の持つ「個人に対するメリット」、「社会に対するメリット」を再確認しました。

＜個人に対するメリット＞

- ・参加の拡大（障害の種類、程度を超えて）
- ・適度な身体的機能の維持
- ・精神的安定

＜社会に対するメリット＞

- ・地産、地消の拡大
- ・職域の拡大
- ・新たな地域コミュニティの創造

次に「先人のことばから学ぶ」として、ゴウディングの目指すことや支援に対する理論的根拠などに関わる重要な人物のことば・実績等から「私たちの願い」「大切なこと」を再確認しました。

＜この子らを世に光に＞（※賀一雄/近江学園）

・「障害者との共感の世界を持つためには、自分の内面を直視することがいかに大切か」という自分自身に対する姿勢そのものの重要性の再確認。

＜本人さんはどう思てはるんやろ＞（岡崎英彦/びわこ学園）

・「私たちは、赤裸々な人間として一つの“いのち”として相対する以外にすべがない。私たちも全力で相対する努力なくして、この子どもたちについていけない。そのふれあいのなかで感じ取られたものが、この仕事の意味かと思う。」

＜すべての人間の発達の基本的すじみちは共通である＞（田中昌人/近江学園）

・「人間発達を個人のものとしてだけでなく、社会発展の法則との関係を明らかにすることを目指した。」

この一年は原点に立ち返った支援をしつつ、システム等の具体的改善に着手していきます。

## いよいよ5年度スタート

ごうでいんぐ岩世ヶ原も4年目に突入しました！今年度は、新しい入所者はいませんが、より楽しくアイデア溢れた支援指導を心掛けていきたいと思えます。

さて、ゴウディングコミュニティが設立し、多機能型事業所として運営を始めた時から、囑託医としてご協力いただいた評議員でもある中根クリニック理事長清水千枝先生が4年度をもちまして、ご退任されました。仲間たちへいつも温かい笑顔で接していただきありがとうございました。そこで5年度4月より、富士市富士岡で開業されております秋山医院の秋山欣丈先生がご着任されました。お忙しい中ですが、とても好意的で最初の来所でも、仲間たちを温かく見守ってくださいました。今後ともよろしくお願いたします。



### 【編集後記】

今年は、猛烈な黄砂が日本列島に押し寄せてきました。当事業所も各部屋の空気清浄機がフル回転です。今後も様々なアレルギー源が発生しますので、ご用心ください。